

30年5月分

問屋、仲買・小売商の先行き動向調査

1. 調査実施期間

平成30年 5月1日～ 30年5月10日

2. 調査実施方法

東京、大阪、名古屋の問屋、仲買・小売商に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
5月分の回答企業数は45社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)=[「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)−(「減少」の評価を行った回答の割合)×2−(「やや減少」の評価を行った回答の割合)]÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 荷動き動向 Weight. D. I.

| 品目 | | 30/5月 | 6月 | 7月 |
|------|-----|-------|--------|-------|
| 仕入動向 | 国産材 | 0.0 | △ 8.3 | △ 1.5 |
| | 外材 | 9.5 | △ 13.1 | △ 1.3 |
| 販売動向 | 国産材 | △ 4.2 | △ 5.6 | 4.4 |
| | 外材 | △ 1.2 | △ 9.5 | 1.3 |
| 在庫動向 | 国産材 | 4.3 | △ 4.3 | △ 9.1 |
| | 外材 | 4.9 | △ 7.3 | △ 9.0 |

・国産材の仕入動向は5月の横ばいから6月、7月は減少に。外材は5月の増加から6月、7月は減少に。

・国産材、外材の販売動向は5月、6月の減少から7月は増加に。

・国産材、外材の在庫動向は5月の増加から6月、7月は減少に。

(2) 価格動向 Weight. D. I.

| 品目 | 30/5月 | 6月 | 7月 |
|----------------|-------|-------|------|
| スギ正角(グリーン) | △ 3.8 | △ 3.8 | 0.0 |
| スギ正角(KD) | 1.8 | △ 1.8 | 0.0 |
| ヒノキ正角 | 3.3 | △ 1.7 | 1.8 |
| ヒノキ土台角 | 10.3 | 1.7 | 3.7 |
| 米ツガ正角(現地挽) | 20.0 | 10.0 | 10.0 |
| 米ツガ防腐土台角 | 28.8 | 9.6 | 11.5 |
| 米ツガ割物(現地挽) | 26.0 | 14.0 | 12.0 |
| 米マツ平角 | 13.3 | 5.0 | 7.1 |
| 北洋アカマツタルキ(現地挽) | 12.5 | 9.4 | 8.3 |
| ホワイトウッド集成管柱 | 10.9 | 4.7 | 3.3 |
| レッドウッド集成平角 | 10.3 | 1.7 | 1.8 |
| 型枠合板(輸入) | 14.8 | 14.8 | 12.0 |
| 針葉樹構造用合板 | 7.7 | 7.7 | 4.2 |
| 針葉樹構造用合板(厚物) | 9.6 | 7.7 | 4.2 |

・スギ正角はグリーン、KDとも保合。
・ヒノキは正角、土台角とも保合。
・米ツガ正角(現地挽)、割物(現地挽)とも横ばい。防腐土台角はやや強含み。
・米マツ平角は横ばい。
・北洋アカマツタルキ(現地挽)はやや強含み。
・ホワイトウッド集成管柱は保合。
・レッドウッド集成平角は保合。
・型枠合板(輸入)強保合。
・針葉樹構造用合板は厚物を含め保合。